

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 柏野和佳子,平本智弥
著『10分でわかる!四字熟語』
柏野和佳子,市村太郎,平本智弥
著『よんだ100人の気持ちがよくわかる!百人一首』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柏野, 和佳子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000757

柏野和佳子, 平本智弥 著

『10分でわかる! 四字熟語』

2013年6月 A5判 191ページ 900円+税

柏野和佳子, 市村太郎, 平本智弥 著

『よんだ100人の気持ちがよくわかる!
百人一首』

2013年8月 A5判 191ページ 900円+税



※いずれも、実業之日本社、「なぜだろうなぜかしら」シリーズ

柏野 和佳子

『なぜだろうなぜかしら 10分でわかる! 四字熟語』は、国立国語研究所が構築した1億語からなる『現代語日本語書き言葉均衡コーパス』(http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)の成果を児童書に応用したものである。このコーパスは、言葉の実際の使われ方を調べるために作られた言語研究のための資料である。日常的によく使われる四字熟語を選ぶ際に、このコーパスを用いて、実際に使われている文例の数や内容を確認した。本書に収録した四字熟語は全部で102語であり、本編で取り上げているのは87語である。ページ欄外には、コーパスで多く使われている順を★印の数で表した。

★★★★★	用例数 200 以上	一所懸命など5語
★★★★☆	用例数 100 以上	創意工夫など30語
★★★☆☆	用例数 50 以上	首尾一貫など26語
★★☆☆☆	用例数 25 以上	危機一髪など18語
★☆☆☆☆	用例数 25 未満	五里霧中など8語

また、コーパスを調べてわかった四字熟語の使われ方などについて解説した。たとえば、次のとおりである。

一朝一夕 ★★★★★☆

一にはできない・にできるものではない・にはいかない、と、否定表現に続いて使われる例が多くあります。続く文が肯定の例はほとんどありません。

一日千秋 ★☆☆☆☆

ほとんどの用例が「一の思いで～(する)」の形です。その後には「待つ」や「待ちわびる」と続く例が多くあります。

二人三脚 ★★★☆☆

一で～する、の形で使われます。夫婦、親子、医者と患者、会社の上司と部下、といった組み合わせの用例があります。

四字熟語は、広く深い意味を持つ。物事を長々と説明せずとも、簡潔に言い表すことのできる便利な語であり、独特の魅力と面白さのある語である。本書では、学校、遊び、家族、くらしという、身の回りの話の中で、四字熟語を身近に感じられるよう、読みやすく解説した。

『なぜだろうなぜかしら よんだ 100人の気持ちがよくわかる！百人一首』は、歌を詠んだ歌人に一人ずつ現れてもらい、歌を作った時の気持ちを説明してもらおうというスタイルをとった。それは、100人の歌人が歌に込めた思いを現代の子どもたちにわかりやすく解説するためである。現代であれば、メールに書いたり、写真に撮ったりすることを、かつての歌人は五七五七七の和歌の世界で表現している。「季節の美しさ」「恋のときめき、切なさ」「人生」「旅」などを歌ったその思いは、古代の日本人と今の日本人とで大きく変わらないということが子どもたちにうまく伝わるように書いたものである。

コラム欄では、言葉の解説を丁寧に行った。たとえば、「花」が梅から桜をさすように変わっていったことや、「霞」と「霧」の違いなどを説明した。説明にはコーパスも活用した。「此の度はたび幣ぬさもととりあへず 手向け山もみじ紅葉の錦 神のまにまに」では、耳に残る「まにまに」は、現代語でも「風のまにまに」「波のまにまに」というように用いられる語であることを『現代語日本語書き言葉均衡コーパス』において確かめて説明した。さらに、「日本語歴史コーパス（先行公開版）」(http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/)も参照した。「廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな」という歌に関して、「めぐると「月」が歌の題材としてよく用いられるものであることをそのコーパスで調べた。この歌を詠んだ紫式部の書いた『源氏物語』の中で、京の都を離れ須磨にいる光源氏が満月を眺めながら「めぐると「月」を題材に歌を詠んでいる例をそのコーパスから見つけ、それをとりあげて説明した。

共著者は、平本智弥（ひらもと・ちや）（国立国語研究所・コーパス開発センター・技術補佐員）と、市村太郎（いちむら・たろう）（国立国語研究所・コーパス開発センター・プロジェクト非常勤研究員）である。

本書2冊が、子どもたちに言葉やコーパスへの興味をもってもらえるきっかけになることを願っている。

柏野 和佳子（かしの・わかこ）

国立国語研究所言語資源研究系准教授。富士通株式会社システムエンジニア、情報処理振興事業協会研究員、国立国語研究所研究員、同主任研究員を経て、2009年10月より現職。

主な著書・論文：『岩波国語辞典第七版』（増補改訂、岩波書店、2009）、『計量国語学事典』（共著、朝倉書店、2009）、『言語処理学事典』（共著、共立出版、2009）、『講座 IT と日本語研究 2 アプリケーションソフトの基礎』（共著、明治書院、2011）。

受賞：第51回全国大会奨励賞（情報処理学会、1996）、2006年度研究会優秀賞（人工知能学会、2007）、第12回年次大会優秀発表賞（共著、言語処理学会、2007）。

社会活動：情報処理学会情報規格調査会学会試行標準専門委員会委員、情報処理学会情報規格調査会学会試行標準WG3小委員会主査。